

令和3年度 日比小学校学校自己評価

各項目の評価…A 十分に達成 B おおむね達成 C あまり達成していない D 達成できていない

学校経営目標	評価項目	具体的な方策	今年度達成基準	評価			評価理由並びに達成状況 ○…成果 ▲…課題、今後の改善点
				得点	平均	トータル	
確かな学力の定着	1 基礎基本の定着	個に応じた指導の充実に努める。	・反復練習を取り入れる。	3.5	3.5		○地域の力を借りておさらい会で基礎基本の復習ができた。(3年生) ○各学年でこれだけは定着させたいという学習内容を話し合い、確認テスト「ひび笑チャレンジ」を実施することができた。 ○学ぶ力が身につく質の高い家庭学習「けてぶれふ」について統一を図った。 ▲確認テストを利用し、個々の実態把握をして学び残しのないように努める。
			・児童が進んで家庭学習に取り組む課題を出している。	3.3			
			・児童個々の実態把握に努めている。	3.8			
			・補充学習・個別支援に取り組むことができています。	3.2			
	2 学びの質の向上	算数科の校内研究に取り組み、指導力の向上を図る。「子ども主体の授業で思考力を高める」～導入での課題のたせ方に重点をおいて～)	・「分かる授業が行われている」という回答が90%以上である。(児童・保護者アンケート)	3.4	3.6	B	○日々の授業に生かすことができる校内研修ができ、授業力の向上を図ることができた。 ○「分かる授業が行われている」という回答が児童94%保護者92%であった。 ▲「算数の授業はよくわかる」と回答した児童は83%であった。 ▲日比小スタイルの学び方、研修の仕方が定着してきているので、年度が替わっても継続していけるようにしていく。
			・「算数の授業はよく分かる」という回答結果が90%である。(児童アンケート)	3.3			
			・考えを広げたり、深めたりする交流の場を大切にできた。	3.6			
			・研修が日々の授業に生かされている。	3.9			
	3 学習規律の定着	見通しがもてる指導に努める。	・年度当初に確認した「授業規律」が徹底できた。	3.5	3.6		○学習のスタンダードについては定着している。 ○児童自らがめあてを考えられるようになってきている。 ▲児童に身に付けさせたい力を明確にし、児童が見通しをもつことができる授業づくりについてさらに研修をしていく。
			・児童が見通しがもてるような授業づくりができた。	3.6			
			・児童自らがめあてを立てられるよう導入の工夫をすることができた。	3.6			
			・振り返りを行うことができた。	3.6			

学校経営目標	評価項目	具体的な方策	今年度達成基準	評価			評価理由並びに達成状況 ○…成果 ▲…課題、今後の改善点	
				得点	平均	トータル		
豊かな心の育成	1 支え合う人間関係づくり	児童が主体的に活動できるよう工夫改善する。	・児童の主体性を生かす係活動や委員会活動ができています。	3.6	3.6	A	○児童が発信していくスタイルの委員会活動ができた。 ○学校教育目標や学校スローガンのつながりを意識した特別活動や行事、学級目標の設定をすることができた。 ○「思いやりの気持ち」が育っている」と97%の保護者・91%の児童100%の教職員が回答している。	
			・学級目標に近づくことのできた学級活動ができた。	3.9				
			・異年齢集団で自分の立場や役割を自覚できるフレンドタイムの活動の工夫ができた。	3.4				
			・「気持ちのよいあいさつや返事をしている」という回答が90%である。(児童アンケート)	3.6				
	2 自己有用感の育成	一人一人を大切に学級経営をする。	・児童との会話や相談の場を意識的に設けることができた。	3.9	3.8	○「子どものよいところを見つけ伝えていく」と回答した保護者が92%である。 ○児童理解に努め、個々に出番を設定することで「夢や目標に向かってがんばっている」と回答した児童が90%である。特に、最高学年の6年生が100%だったのは大きな成果である。 ▲それぞれの教育活動でより意識し、児童の自己肯定感を育てる仕掛けを設定していく。		
・児童が満足感、成就感、存在感を味わうような場づくりに心がけることができた。	3.9							
・「子どものよいところを見つけ伝えていく。」の回答が90%以上である。(保護者アンケート)	3.7							
健やかな体の育成	1 基本的な生活習慣の定着を図る。	あたりまえのことがあたりまえにできる。	・「そうじはだまって進んでしよう。」が徹底できた。	3.5	3.3		B	○高学年がよいモデルとなり、黙動清掃や廊下歩行については徹底してきている。 ▲道路のきまりについても、児童が主体的に危険箇所や危険な行動について考えることができるようにしていく。
			・「だまって早く集合しよう」が徹底できた。	3.1				
			・「ろうかや道路のきまりを守ろう」が徹底できた。	3.2				
	2 健康な体づくり	外遊びを推奨する。	・「1日1回は外遊びをしている」という回答が90%以上である。(児童・保護者アンケート)	3.4	3.2	○「1日のどこかで外遊びをしている」と回答した保護者は95%、児童は81%であるが、県の事業を活用しながら、来年度は更に主体的に体力づくりに取り組む。 ○「げんきアップ」は、より主体的に児童が自分の生活を見直すきっかけになるものに改善した。 ▲児童発信によりメディアコントロールを意識させる方法を検討		
			・「げんきアップ週間は自分から取り組んでいる」という回答が80%以上である。(児童・保護者アンケート)	2.9				

学校経営目標	評価項目	具体的な方策	今年度達成基準	評価			評価理由並びに達成状況 ○…成果 ▲…課題、今後の改善点
				得点	平均	トータル	
信頼される学校	1 児童の安全	安心して生活できる学校	・緊急時の対応をきちんと把握できている。 ・避難訓練を通し、緊急時の対応を指導することができた。	3.5 3.7	3.6	A	○不審者や緊急時の対応について研修を行った。 ○避難訓練では、事前にDVDを視聴したり、実施後に振り返りを行ったりし、実効性のある訓練になった。 ○教職員が正しい人権感覚を持ち、いじめを見逃さない姿勢で対応していくことができた。 ○毎月の生徒指導委員会と校内委員会で児童の状況や対応の共通理解ができた。 ○「学校だより等を通じて、教育活動について分かりやすく伝えていた。」という回答が92%であった。 ○「楽しく学校に通うことができている」という回答が97%であった。 ○「保護者や地域の力を借りて、教育活動の活性化に努めている」という保護者の回答が92%であった。 ○コロナの影響で参観日や懇談ができなかったこともあるが「学校と家庭との連絡は密にできている」という回答が90%であった。 ▲コロナの影響で学校園と連携した行事ができなかった。 ▲連携の仕方を見直す。今まで
	2 組織的対応	一人一人を大切に生徒指導、特別支援教育	・些細なことでも報告・連絡・相談ができた。 ・いじめ事案に対し、早期解決のために、組織的対応ができた。 ・特別支援教育について、校内で共通理解ができている。 ・個別の支援のため、ケース会議を開き、対応を考える機会をもった。	3.7 3.7 3.8 3.8	3.8		
	3 組織運営	情報発信	・「学校だより等を通じて、教育方針について分かりやすく伝えていく。」という回答が90%である。(保護者アンケート) ・「楽しく学校に通うことができている」という回答が90%である。(保護者アンケート)	3.6 3.7	3.7		
	4 地域との連携	保護者、地域、中学校区との連携	・「学校と家庭の連絡は密にできている」という回答が90%である。(保護者アンケート) ・「保護者や地域の力を借りて、教育活動の活性化に努めている」という回答が90%である。(保護者アンケート)	3.4 3.4	3.4		
協働し高め合う教職員	1 質の高い教職員集団づくり	教職員の信頼	・教育活動の悩みを、気軽に話し合える職場の人間関係がある。 ・学校運営に教職員の意見が反映されている。	3.8 3.8	3.8	A	○若手、ミドル、ベテラン教員がそれぞれ認め合い高め合うことのできる教職員集団である。 ○異動者が多かったため、予め支援者を決め(メンター制)で気軽に相談できる体制をとった。 ○校内研修の目的を明確にし、講師を招かず、研究主任を中心に昨年度からの取り組みを日比小スタイルに定着させていった。 ○勤務時間を意識した業務改善について考えたり、行事を精選する中で行事の目的や意義、持ち方について考えることができた。
		教職員の資質向上	・校内研修等の活動は計画的で充実している。	4	3.9		
		教職員の働き方の意識	・働き方改革の趣旨を理解し、意識して実践している。	3.7	3.5		